

小牧市地域公共交通計画(案)に関するパブリックコメントに提出された意見等の概要及び提出された意見に対する市の考え方

No	意見(原文)	意見に対する市の考え方
1	「利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る」という回答が、真に大多数の意見とは思えない。それは、市の財政にしか考えが及ばない「現在は影響を受けない人たち」の意見であって、「現在影響を受ける人」や「将来影響を受ける人」を切り捨てることになる。 すなわち、「将来、自動車に乗りなくなることをイメージしていない人」「老人ホームに入れなくて自宅で過ごさなければならないことをイメージしていない人」を切り捨てることになる。 「運転手不足で減便する」それはやむを得ないが、やはり同じことである。 75歳以上の老人に運転させたくなければ「タクシーをサブスク」にするなど、思い切った政策を同時進行してもらわないと「弱者切り捨て」になり、ますます小牧から人口が減って税収が減るだろう。 自動運転以前の問題として、国が解禁した「タクシーのサブスク」を早く導入してほしい。	■新たな交通サービスの導入について タクシーのサブスクリプション、いわゆる定額運賃の導入については、タクシー事業者にて検討がされるものとなりますが、デマンド交通や公共ライドシェアなど市が実施主体となって行う地域公共交通を補完する新たな交通サービスにおけるサブスクリプションについては、本計画の56ページ「目標5 安定的・持続的な交通サービスの提供」を達成するために実施する事業である「事業5－⑤ 新たな交通サービスの導入・検討」に記載のとおり、導入を検討することとしています。
2	昨今の状況を鑑みて、こまくるの再編、運行の見直しを行うとされてます。これをさらに見直す案として、周辺自治体との連携して各コミュニティバスの相互のりいれ、ルート、時間の見直しもすすめることを提案します。	■こまき巡回バス「こまくる」について 本計画案の54ページ「目標2 広域的な移動を支える公共交通手段の確保」を達成するために実施する事業である「事業2 各公共交通機関の役割に応じた運行」に記載のとおり、広域的な移動ニーズに対応するため、隣接市町のコミュニティバス等との連携を図ることとしています。
3	1. 私は、①巡回バス(こまくる)をよく利用しています。車なしの2人老世帯です。 ②岩倉一問内線の利用は月6回～10回(1往復で1回)しています。 2. 基本的な意見 現在の23路線17台体制及び運転手34人体制は少なくとも維持して下さい。 3. 上記に対する考え方 ①案には非常にくわしい調査が載っており、よくわかります。しかし、アンケートなどの調査は不十分であると思います。非常に多く利用されている路線と少ない路線がありますが、少ない路線は「何故少ないのか」の声が充分反映していないと思われます。 ②私は藤島線と多気線を利用していますが(主として毎日のように)、1時間毎に1本のため、朝8時頃と午後4時頃の利用者が多く、満員のときもしばしばです。(1本目は空いていることが多い)「本数を増やしてもらえればもっと利用したい」という声(意見)がよく聞かれます。①重点的に本数を増やすこと。②夕方が早く終わるすぎる。などの声です。 ③運転手の不足は理解しています。しかし、公共交通はその名のとおり交通の基本的なものです。本来なら公務員や大企業、常勤の働く人達は公共交通を使うべきだと思います。このような状況をつくるには国がもっと政策にとり入れるべきであり、英国のように「国が半分、自治体が半分」の器量とすべきだと思います。是非、意見を国に上げて法的な保障に進んで下さい。 ④改定する際には、住民の意見を公開で聞くように強く要請します。	■こまき巡回バス「こまくる」について 本計画案の54ページ「目標1 市内移動を支える公共交通手段の確保」を達成するために実施する事業である「事業1－②こまくるの再編」に記載のとおり、持続可能なサービスを提供するため、概ね5年サイクルで運行体制やルート等の見直しを実施することとしています。 現在、令和8年4月に予定している「こまくる」の再編運行については、今後も続く予測される運転手不足と本年4月から適用された「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」に定められた運転時間の影響を大きく受けるものであり、具体的には、現在、23路線17台を1日あたり34人の運転手で運行していますが、一部の路線は1台あたり1人体制とし、1日あたり24人程度の運転手で運行可能な体制に見直さざるを得ない状況であり、利用者数が少ない支線系路線などは、現在の運行便数が減少することとなるものであります。 また、ダイヤにつきましては、引き続き定時性を保持することができるものとし、便数が減少する路線は現在の利用状況を踏まえるとともに、適切な運行間隔の検討を進め、今後も可能な限りサービス水準の維持に努めるものであります。 ■運転手不足について 全国的な問題であることから、現在、国や県においても、対応策が検討されているところであります。今後、国や県、周辺市町の対応状況について、注視していきたいと考えています。 ■ニーズ調査等について 本計画の策定や「こまくる」の再編にあたり、改めて、広く皆さまのご意見などをお聴きするために、市民アンケート調査やバス利用者アンケート調査等を実施しており、調査結果については報告書として市公式ホームページに掲載しています。この調査で得られた各公共交通機関のサービスの満足度などから、その課題などを把握し、各交通事業者と連携して事業を実施していきたいと考えています。また、アンケート調査に加え、昨年度と今年度に、多くの地域の方々のご意見を聴くため、市内4箇所地域懇談会を実施しました。このようにしていただいた様々なご意見を踏まえたうえで、計画の策定を進めています。
4	高齢者の移動は、健康面の維持のため、経済の流れを強くするために必要だとづくづく感じます。 家に引き込むことが多いと医療や介護の費用が重なることになります。 巡回バスで、97才の女は週に2回四季の森でPゴルフをやり、健康保持に努力していました。楽しみにしていました。 今だに介護認定は受けていません。助かってます。 巡回バスのコースを変更し、本数を少なくすると、増々出かける機会を減り、もらっている年金さえ使え切れない老人もいるのではないのでしょうか？ 小牧市の「こまくる」は、全国的にもすぐれた行政の交通手段としては優秀です。自慢できます。今後も路線バスを基軸とした交通手段を考えてください。 よろしくお願いします。	■こまき巡回バス「こまくる」について 本計画案の54ページ「目標1 市内移動を支える公共交通手段の確保」を達成するために実施する事業である「事業1－②こまくるの再編」に記載のとおり、持続可能なサービスを提供するため、概ね5年サイクルで運行体制やルート等の見直しを実施することとしています。 現在、令和8年4月に予定している「こまくる」の再編運行については、今後も続く予測される運転手不足と本年4月から適用された「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」に定められた運転時間の影響を大きく受けるものであり、具体的には、現在、23路線17台を1日あたり34人の運転手で運行していますが、一部の路線は1台あたり1人体制とし、1日あたり24人程度の運転手で運行可能な体制に見直さざるを得ない状況であり、利用者数が少ない支線系路線などは、現在の運行便数が減少することとなるものであります。 しかしながら、ルートにつきましては、引き続き交通空白地域の解消を図るものであり、現在、小牧駅、市民病院を起終点としているルートにつきましては、双方を経由するルートに見直し、「こまくる」間の乗り継ぎ不便さの軽減を図るものであります。 また、ダイヤにつきましては、引き続き定時性を保持することができるものとし、便数が減少する路線は現在の利用状況を踏まえるとともに、適切な運行間隔の検討を進め、今後も可能な限りサービス水準の維持に努めるものであります。 ■路線バスを基軸とした交通手段について 本計画案の49ページから50ページ「公共交通機関の機能分類」に記載のとおり、小牧市の地域公共交通が目指す姿の中で、「小牧市都市計画マスタープラン」の将来都市構造で定められた拠点(中心拠点と地域拠点)や公共交通軸(南北鉄道軸と東西公共交通(バス)軸)、「小牧市立地適正化計画」の都市の骨格構造で定められた拠点や公共交通軸を踏まえ、鉄道、各種バス及びタクシーにより地域公共交通ネットワークを形成し、各公共交通機関の役割に応じた運行を実施することとしています。
5	地域公共バスの本数をぜひ、増やして下さい。 最低1時間に1本、できれば1時間に2本を。 バスがなければどこへも行かれないのです。 高齢者を家の中へ閉じ込めないで下さい。	■こまき巡回バス「こまくる」について 「No.4」の回答のとおりです。
6	・巡回バスを増やして下さい。 ・小牧市民病院へ桃花台から直接いけるようにして下さい。 ・高齢者が運転免許をハイキした場合、何かメリットがあるといいです。	■こまき巡回バス「こまくる」について 本計画案の54ページ「目標1 市内移動を支える公共交通手段の確保」を達成するために実施する事業である「事業1－② こまくるの再編」に記載のとおり、持続可能なサービスの提供及び利便性を確保するため、運行体制やルート等の見直しを実施することとしています。 現在、検討を進めている令和8年4月に予定している「こまくる」の再編運行については、今後も続く予測される運転手不足と本年4月から適用された「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」に定められた運転時間の影響を大きく受けるものであり、具体的には、現在、23路線17台を1日あたり34人の運転手で運行していますが、一部の路線は1台あたり1人体制とし、1日あたり24人程度の運転手で運行可能な体制に見直さざるを得ない状況であり、利用者数が少ない支線系路線などは、現在の運行便数が減少することとなるものであります。 しかしながら、ルートにつきましては、引き続き交通空白地域の解消を図るものであり、現在、小牧駅、市民病院を起終点としているルートにつきましては、双方を経由するルートに見直し、「こまくる」間の乗り継ぎ不便さの軽減を図るものであります。 ■運転免許証自主返納について 本計画案の56ページ「目標5 安定的・持続的な交通サービスの提供」を達成するために実施する事業である「事業5－① 公共交通の利用促進」に記載のとおり、公共交通をPRし、認知度・理解度を高め、多くの方に公共交通を利用してもらうため、高齢者の免許返納を支援する各種割引制度の周知を実施することとしています。
7	・巡回バスの本数を1時間に2本にして欲しい。 ・巡回バスの運転手足はバス会社で対応、解決して欲しい。	■こまき巡回バス「こまくる」について 本計画案の54ページ「目標1 市内移動を支える公共交通手段の確保」を達成するために実施する事業である「事業1－② こまくるの再編」に記載のとおり、持続可能なサービスの提供及び利便性を確保するため、運行体制やルート等の見直しを実施することとしています。 現在、令和8年4月に予定している「こまくる」の再編運行については、今後も続く予測される運転手不足と本年4月から適用された「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」に定められた運転時間の影響を大きく受けるものであり、具体的には、現在、23路線17台を1日あたり34人の運転手で運行していますが、一部の路線は1台あたり1人体制とし、1日あたり24人程度の運転手で運行可能な体制に見直さざるを得ない状況であり、利用者数が少ない支線系路線などは、現在の運行便数が減少することとなるものであります。 ■運転手不足への対応について 本計画案の56ページ「目標5 安定的・持続的な交通サービスの提供」を達成するために実施する事業である「目標5－③ 運転手確保に向けた取り組み」に記載のとおり、交通事業者と市において運転手確保に向けた取り組みを実施していくこととします。